

ようこそ 利尻礼文サロベツ国立公園へ

厳しい寒さに耐え抜いてきた利尻礼文サロベツ国立公園の自然は、美しくもこわれやすい。

公園を訪れる際には、この貴重な自然を傷つけることのないようルールとマナーを守ろう。

利尻礼文サロベツ国立公園の 歩き方

利尻、礼文両島には植物固有種、希少種が多く生育している。足元に広がるお花畑を楽しむ際も、歩道以外には立ち入らないよう注意しよう。また、植物を採ったり折ったりすることも禁止されている。いまは常識となっているが「とるのは写真だけ」というルールを守ろう。

利尻山では、登山道を外れて歩くと浸食が進み、登山道が崩落するおそれがある。利尻山登山の際は別項の「利尻ルール」を守ろう。また、湿原は踏み跡がつかただけで傷み、回復には長い時間がかかるため、木道のあるところでは、木道から下りないようにしよう。



ゴミ 持ち帰り

自分で出したゴミは自宅まで持ち帰ろう。捨てられたゴミを見るのは誰にとっても不愉快なもの。また、野生動物がそれを食べ、習性をゆがめたり、汚水が植生に影響を及ぼす場合もある。ゴミ持ち帰りは、心がけ次第で簡単にできるマナー。ぜひ身につけよう。

利尻ルール (利尻山登山のルール)

1 携帯トイレを使う

携帯トイレは旅館などで購入できる。登山道の途中には使用のための専用ブースが、登山口には使用後の回収ブースが設けられている。



2 ストックにキャップをつける

ストックの鋭い先端は崩れやすい土壌を掘り起こし、崩落を促進してしまう。ストックを使用する際は先端にゴムのキャップをはめるようにしよう。



3 植物の上に座らない、踏み込まない

植物を傷つけないよう、また土壌の浸食を少しでも防ぐため、歩道から外れないようにしよう。

利尻山登山道を保全する取組み

利尻山ではスコリアという赤い土がよく見られる。このスコリアはとても脆く、登山者の踏みつけにより植生が失われた登山道は、雨や雪どけ水の流れによる浸食が進みやすい。特に利尻山上部では、登山道が大きく掘られていたり、崩壊している箇所も見受けられる。

この対策のため、地元の登山関係者と関係機関が協力し、登山道の補修を試行錯誤しながら行っている。登山の際には、利尻山の自然の素晴らしさを味わうとともに、登山道の弱さにも心を配って、一步一步を重ねるようにしよう。

下サロベツ 自然観察路



この公園には、サロベツ原野の2カ所にビジターセンターがある。公園に来たら、まずビジターセンターに立ち寄ってみよう。地域の自然や歴史などの展示があり、常駐するスタッフの解説などを通じて、最新の情報が入手できる。また、自然体験プログラムを通じて、湿原のおもしろさを知ることができる。

サロベツ湿原センター

上サロベツ原野の入口、JR 豊富駅とよとみから稚咲わかさか内に行く途中にある。サロベツ原野の成り立ちや湿原の仕組みなどの解説展示がある。また、湿原内をめぐる木道があり、植物や野鳥の観察ができる。



〒098-4100 天塩郡豊富町上サロベツ tel.0162-82-3232



幌延ビジターセンター

下サロベツ湿原の長沼の近くにある。館内にはサロベツ原野とそこに生きる多様な動植物の展示がある。また、長沼を通ってパンケ沼まで木道があり、湿原植物や水生植物、野鳥の観察ができる。



〒098-3228 天塩郡幌延町字下沼 tel.01632-5-2077
開館期間：5～10月 開館時間：9～17時

